

女子1500 高木2連覇

スピードスケート

全日本選手権

スピードスケートのミラン・コルティナを兼ねた全日本選手権最終日は28日、長野市エムエーブで行われ、女子1500メートルは高木美帆(TOKYOインカラム)が1分55秒12

で2連覇した。五輪は4度目の代表。2位の佐藤綾乃(ANA)は1分56秒21で日本連盟の派遣標準記録の最高位SSに次ぐ「S」を突破し、3度目の代表入りを決めた。

男子1000メートルは山田和哉(ウエルネット)が1分38秒53の大会新記録で初優勝し、2位の野々村太樹(博慈会)ととも

で出場となる。3位の森重航(オカモトグループ)が500メートルに続いて代表入りし、小島良太(エムウエーブ)は4位で落選した。

五輪へテスト 疲労も圧勝

日本が五輪出場枠を逃した男子1万は伊藤貴裕(白鋼)が3年ぶりの優勝。菊池健太(青森県競技力対策本部)は3位、森野太陽(同)は5位だった。マススタートの女子は小坂渾(K日ネオケム)が制し、近藤茜菜(八戸学院大)は3位。男子は瀬上結太(関学大)が制した。

ハイライト

3日連続のレースで体に疲労が残っている状況を、高木は格好のテストと捉えていた。本命種目の女子1500メートルは五輪で大会最終に控えるからだ。結果は2位に1秒以上もの大差で圧勝。「自信を持っていけるという実感がつかみ切れなかった」と自己採点は厳しいが、本番前最後の国内大会を1000メートルとの2冠で締めくくった。

朝の準備運動から動きに硬さを感じ、最終週のラップタイムは2秒近く失速した。それでも「自分の体に何が起きている

のか、みたいなものは、だいふ理解できた」と冷静に受け止める。レースが続く中で乱れた滑りをすると「反動が大きくなってしまっ」のが原因だという。複数種目出場予定の五輪に向け「体の使い方がすごく大事になる。取捨になった」と手応えをつかんだ。